

## 第8回 大阪府・河内長野市 未来技術地域実装協議会 議事概要

■日 時：2023年3月27日（月）10:00～12:00

■開催形式：ウェブ会議による開催

### 【議事要旨】

#### （1）大阪府・河内長野市未来技術社会実装事業 成果報告

- ・資料1について、事務局より説明。

#### （2）河内長野市における今後の取組について

- ・資料2について、事務局より説明。

#### （3）質疑応答及び意見交換

（佐藤委員）

- ・ゴルフカートの使用について、車両のつくり上、良い面と悪い面があると思う。開放的だが、暑かったり寒かったり、雨が降りこむこともある。悪い面に対し、利用者はどんな印象を持っているのか。
- ・福祉の増進等、副産物の多い事業だったという話があったが、福祉の増進に関して、定量的な評価があれば教えていただきたい。

（河内長野市）

- ・利用者から、車両の快適性について何とかしてほしいとご意見をいただいている。運行スタッフとの会議に、電動ゴルフカートを導入しているヤマハにも参加してもらい、車両の改良を進めているところ。事業当初問題となっていた雨漏りも改善されたほか、新たにシートヒーターも設置した。ただ、乗り合いが気軽にできることを目指しているのだから、快適性を追求しすぎて普通の車になってしまうよう、良い面は残しながら改良を進めていきたい。
- ・定量的評価については、取組みを進めており、ヤマハと千葉大学が電動カートによる移動が介護予防等「健康促進に寄与」するかを検証する実証実験を実施しているところ。効果検証結果が出るのは来年度以降になると思う。

（日野副会長）

- ・確認したい点が3点ある。
- ・【1点目】下里地域の話があったが、何を横展開と考えるのか。電動ゴルフカートという車両やシステムの横展開なのか、一般市街地における地域主体の有償運送の横展開なのか。
- ・【2点目】（事業計画策定について）どのような住民のニーズがあったのか。それをどのように事業計画に反映したのか。
- ・【3点目】手動運転をどうしていくのか。自動運転と手動運転の補完関係について、今後の展開を教えてください。

(河内長野市)

- ・【1 点目】 下里は公共交通空白地域であることから、これまで、南海バス等と連携しながら色々と実証実験を行ってきたが、上手くいかなかった。しかし地域住民主体による取組みによって、公共交通空白を解除できた。市民協働での移動支援という形での横展開の成果と考えている。
- ・運行主体である自治会はボランティアで実施しているので、有償化については検討されていない。
- ・車両自体は備品として市から貸与しており、車両の保険費用は市が負担している。
- ・【2 点目】 買い物等のニーズが一番大きかったため、コノミヤを中心とした今の形に繋がっている。バス停まで行くのが大変という意見もあったが、現状、バス停が設けられている 1 号線までクルクルで行くことができない。郵便局を新たに乗降ポイントとして設置し、利便性向上を図っているが、バスとの接続方法については、南海バスとも連携しながら、検証を進めていきたい。
- ・【3 点目】 過去に実施したアンケートで、定時定ルート運行の方が乗りやすいという意見が 7 割に達していたことから、定時定ルート運行のニーズは非常に多いと考えている。3 月 11 日から C、D ルートの運行を開始し、南花台全域に広げられたので、利用状況を見ながら、補完関係が生まれるような運行形態をこれから考えていきたい。

(日野副会長)

- ・下里地域での運行について、市が一部費用負担をしているということなので、無償での運行を続ける場合、不公平が出ないようにしないといけないと思うので、公共交通側とも連携をお願いしたい。

(佐藤委員)

- ・自動運転で特に重要なのは、ODD。「Operational Design Domain」の略だが、どういう時に自動運転をして、どういう時にはやめる等の前提となる走行環境条件を明確にしておく必要があると思う。また、難しいかもしれないが、万が一事故が発生した時に、責任問題をどう解決するのか。金銭的な対応も含めて、事前に決めておいた方が安心できると思う。

(日野副会長)

- ・「ラストワンマイル」という言葉をどういう意味合いで使っているのか、しっかり定義付けしてほしい。公共交通との軋轢が生じないよう調整いただけると有難い。
- ・step3 の専用レーン化について、住宅団地の中で専用レーン設置はまずありえないと思う。1 車線しかないので、そこを専用化すると他の車両が通行できなくなる。優先レーンなのか時間規制なのか、どのように対応するのか、どこまで実装するのか、警察や地域住民とも調整しながら検討いただきたい。
- ・今後も事業を実施される中で、経費と自主財源の関係についても考える必要があると思うが、何か検討されていることはあるか。

(河内長野市)

- ・地域内の移動支援として、概念的に「ラストワンマイル」という言葉を使わせていただいているが、公共交通との共存についてはしっかり考えながら進めていきたい。
- ・専用レーンでの実証実験については、クルクルが自動化された状況で走り続けられるような設定をし

ていきたいと考えている。

- ・経費については、これからの課題と認識している。現時点で、明確な削減ポイントのお答えは難しいが、コスト削減方法についても、今後検討を進めていきたい。

(警察庁)

- ・step2での遠隔監視者による発進操作や、step3での取組みについては、検討すべき課題があるように思われるので、各stepに進む前には、早め早めに地元警察や大阪府警本部とよく調整をしてから進めていただくよう、お願いしたい。

(内閣府地方創生推進事務局)

- ・内閣府の事業採択は、未来技術の社会実装のチャレンジを応援するもので、サービスの中身について限定するものではない。河内長野市の自動運転による地域の足の確保という点を捉え、支援をさせていただきたいと思っている。公共交通との接続に関しても今後チャレンジされるということなので、そういった点も含め応援したい。

(江川会長)

- ・ゴルフカートの利用は、身軽さ、ヒューマンスケールであること、乗り降りが容易であること等、次の時代のコミュニティデザインに向けて、1つの好ましい景観を形成していると思っている。
- ・不測の事態の安全性等、レベル4の自動運転になった時に、どのような車両になっていくのかという点は、重要な要素であると思う。
- ・安全性や色んな面から、この自動運転を、コミュニティの中でこれからさらに実現しようとしているわけだが、好ましい景観、移動景観というものについても、皆さんの意見が高まっていけばよいなと思っている。